

2023年度全日本学生柔道優勝大会 福工大スポーツ NO.6

全国大会連覇を逃すも

全国3位



優勝旗返還（羽田野主将）

6月24日（土）令和5年度全日本学生柔道優勝大会が日本武道館（東京）にて開催された。

全国2連覇を目指す本学女子柔道部であったが、準決勝で同じ九州地区代表の東海大九州と対戦し、1勝2敗と敗れ、全国3位の結果であった。

本学は昨年の優勝校として徹底的にマークされているうえ、選手のけがに悩まされ、一試合ごとのベストオーダーを組むことが難しかった。

準々決勝は、過去優勝2回、準優勝3回の創価大学だ。今年も強豪校がひしめき合う東京地区で堂々たる優勝で本大会に出場してきた。ここに勝てば2連覇が見えてくる。先鋒の中尾あづき（4年社環）が勢いのある中東選手との対戦で引き分けに持ち込み、中堅では主将の羽田野真尋（4年社環）が最も強豪とみなされる森山選手に得意の内股の「技あり」2つの合わせて1本勝ちをおさめた。続いて1年生ながら大将を務めた大坪夕菜（1年社環）が隅返しからの横四方固めで1本勝ちをおさめ、準決勝に進出した。

準決勝は、同じ九州地区の東海大九州。地区大会では1勝1敗1分けと引き分けている。先鋒の中尾は、相手の増田選手に技ありをとられた後、負傷棄権で1本負けする。羽田野は、地区大会で一本勝ちしていた入江選手に技ありの優勢勝ちしかできず、続く大坪は、鎌田選手に開始まもなくの一本負けとなった。結果、1勝2敗で東海大九州に敗れ、全国第3位となった。

今後、女子柔道部は10月初旬の全日本学生体重別選手権大会への現部員全員出場と上位進出を目標として、すでに厳しい稽古を始めている。

泉監督に聞く

今年は、けがに悩まされたが、心・技・体において昨年より成長しているし、強くなっていた。しかし、全国大会2連覇には、まだ足りない部分があったということだ。

私たち女子柔道部は、全国3位で満足できるチームではない。選手誰一人として、この結果に満足していない。来年は、再び優勝旗を福工大に持って帰るつもりだ。

また、今後は、個人戦として体重別選手権大会が秋にある。できる限り多くの選手が、全国大会に出場し、さらなる高みにいくよう、励んでいきたい。

福岡工業大学
信州大学
城西国際大学
同朋大学
創価大学
東海大学九州
名城大学
姫路獨協大学
星槎道都大学
防衛大学

慶応義塾大学
東日本国際大学
札幌学院大学
名古屋商科大学
同志社大学
芦屋大学
芝浦工業大学
九州共立大学
広島大学
酪農学園大学
茨城大学